

# 再建だより

(第6号)

平成29年1月15日

臨濟宗妙心寺派 圓福寺

## ご寄付の途中経過と本設計

- ・ご寄付累計と途中経過
- ・立面図
- ・山門と駐車場

# 再建元年

宗教法人 圓福寺 本堂・書院・庫裡新築工事  
設計期間 及び 工期

	平成29年								平成30年	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	7月	8月
設計	実施設計									
申請			事前申請	確認申請 適合性判定						
工事				見積期間	見積調整	契約	着工			8月末竣工

## ひのとり 平成29丁酉年

あけましておめでとうございます。

上の表のとおり、本年7月ころより、伽藍再建工事が始まる予定です。圓福寺の「再建元年」となるものと思っています。

私事で恐縮ですが、還暦を迎えます。干支が60年かかって一回りして、生まれた年と同じ干支になるので、私も生まれ変わったつもりで、再建に向けて微力を尽くしてまいりたいと思

います。とはいえ、なにぶん微力のうえ菲才ですので、檀信徒の皆様のご格別なお力添えと、ご鞭撻を切にお願い申し上げます。

再建元年、還暦、その上、入寺30周年というのもありました。なにやら因縁めいた年回りです。

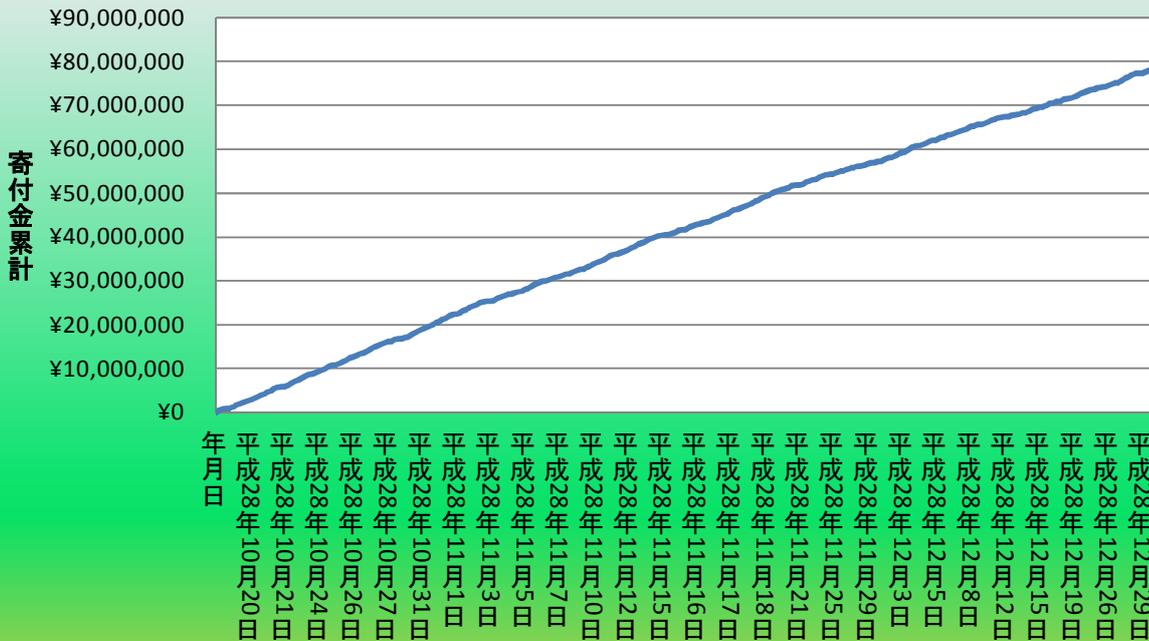
今年も、再建にむけての状況をお知らせしてまいりますので、よろしくお願いいたします。

### 目次：

寄付途中経過	2
伽藍正面立面図	4～5
本堂西側立面図	6～7
山門と駐車場平面図	7
茶室と中庭	8
ブラック寺院	8

# ご寄付の途中経過

## ご寄付状況の推移



昨年10月19日に、「伽藍再建に向けて」の表題で、伽藍再建の寄付金のお願いをお送りさせていただき、もうじき3か月になろうとしています。その間、たくさんの檀信徒の皆様からご芳志をお寄せいただいております。お申し込みいただいた折にお礼状を差し上げておりますが、改めて厚く御礼申し上げます。

上の図は、寄付金集計表をもとに、ご寄付の累計を月日で追ったものです。なにか興味深い傾向を知ることができたり、参考になることが分かるかもしれませんが、浅学な読解力では順調にご寄付が集まっていることぐらいしかわか

りませんでした。

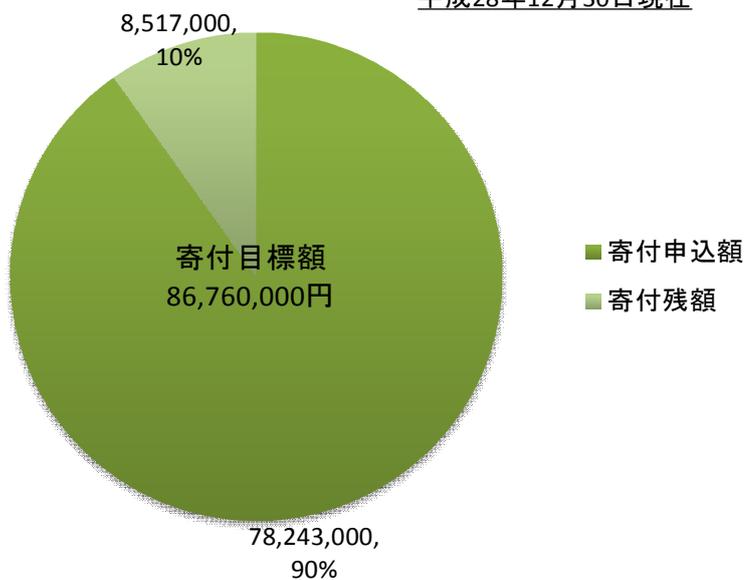
ご寄付の期限を設けてあれば、その期日までグラフの線を延ばせば、予想されるご寄付の額が予測されるのかもしれませんが、特に期限も設けてありませんし・・・。

右肩上がりのグラフで、なにやら景気がよさそうですが、支出がないのですから当然です。かつてこんなグラフを見せられて、日本中が酔いしれたことがありました。戦後復興の時とバブルの時です。圓福寺も復興元年ですが、右肩上がりのグラフに踊らされず、さらに気を引き締めなければと、戒めの意味で掲載させていただきました。

寄付目標額	86,760,000 円	
寄付申込額	78,243,000 円	
寄付残額	8,517,000 円	
達成率	90.18%	
寄付人数	273 名	
寄付人数内訳	一括	241 名
	分割	32 名

## 再建寄付金途中集計

平成28年12月30日現在



左の図表は、「再建だより」第5号に掲載したものの最新データです。おかげさまで、寄付目標額の9割までご寄付が寄せられています。

檀信徒のみなさんのお気持ちの表れで、もう9割まで集まったと喜んでおりましたら、「和尚さんの目標額の設定が低すぎるんじゃないの？寄付が目標額に達しても、お寺の借り入れがなくなるわけじゃないんだから・・・。」と水を差されてしまいました。

寄付目標額が低いとは思いませんが、お寺の借り入れがなくなるわけじゃないというのはおっしゃる通り！これから長い借金生活が始まるのですから、ご芳志に対して感謝の気持ちは忘れずに、喜んでばかりいたらいけないとの忠告でした。

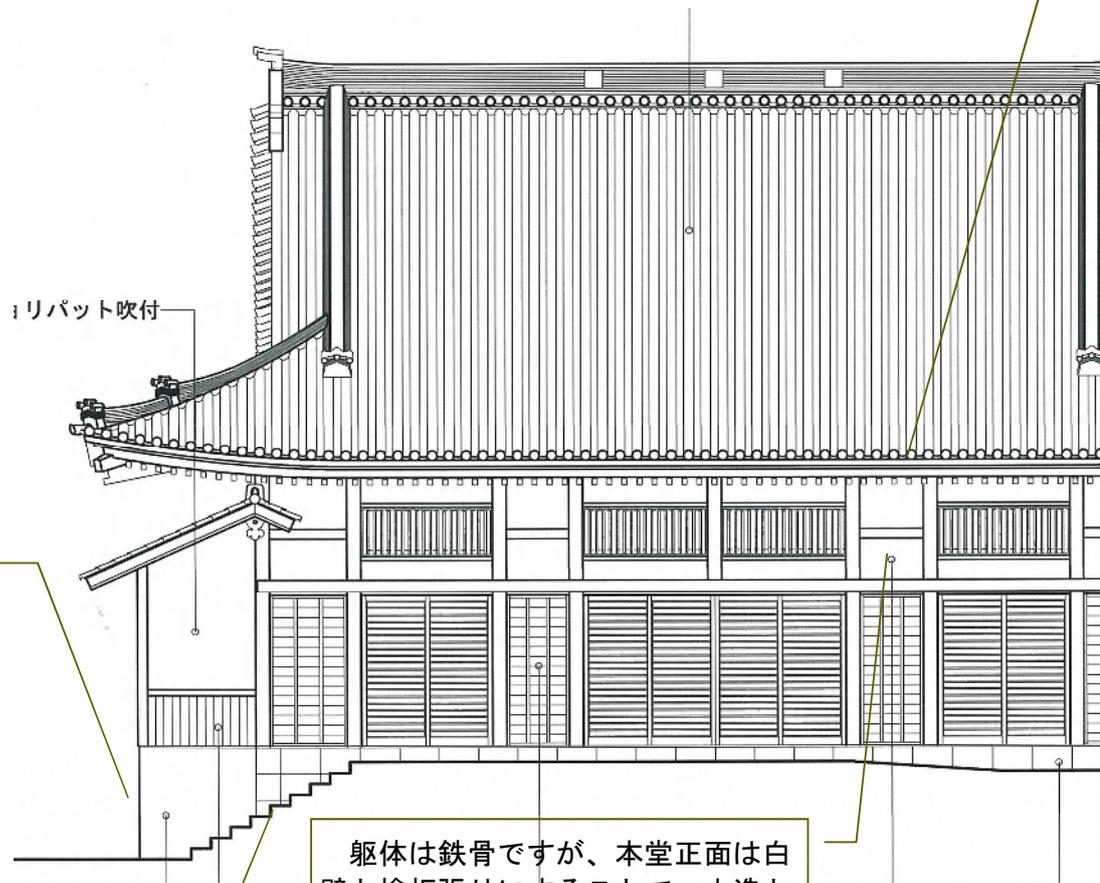


## 仏像仏具篤志寄付

再建寄付金とは別にお願いした「仏像仏具篤志寄付」の方は、昨年末で15,825,000円の篤志が集まっておりますが、こちらはまだ目標の半分ぐらいです。建物が再建できて

も、中ががらんどろでは差支えがありますので、こちらのご寄付もなにとぞお忘れなく、よろしくお願い申し上げます。

## 正面立面図



本堂西側の床下は、外回りの物置として利用します。地蔵盆や年越しまいりの道具などは、この部分に収納することになります。また、墓参の方のトイレもこの部分を有効に使って作ります。

本堂前から墓地へ行く階段となります。

躯体は鉄骨ですが、本堂正面は白壁と檜板張りにすることで、木造と同じような仕上がりになります。ただし、建具は道路からの音を遮断するためにアルミサッシにして、防音性を高める工夫をしています。

庫裏玄関前には、以前本堂前にあった「舟形手水鉢」を据え、水と緑が訪れる人を和ませてくれると思います。

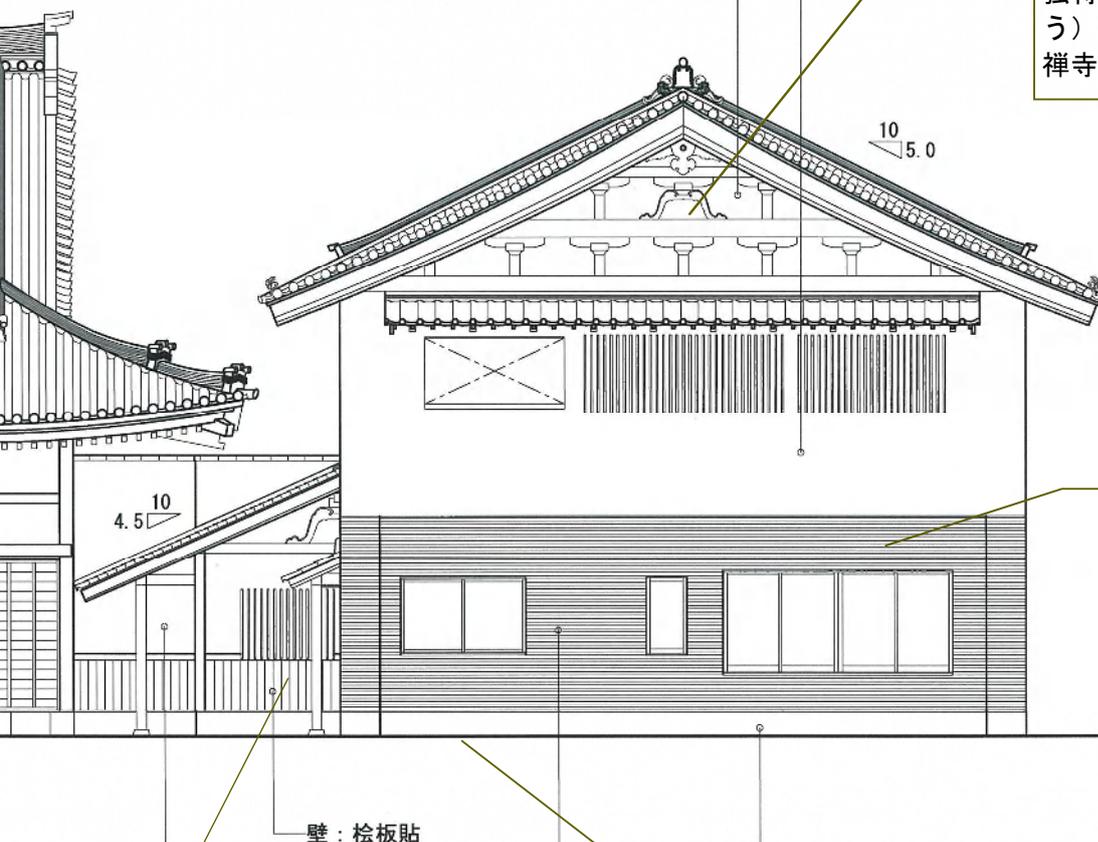
以前のような広さの庭を作ることはできませんが、この「舟形手水鉢」に限らず、いままでの庭にあったものをできるだけ生かして、建物の周りを整えていこうと思っています。。





軒瓦は、オリジナルの「〇に福」のデザインになります。

庫裏正面の壁には、禅宗の庫裏独特の意匠である虹梁（こうりょう）や升形（ますがた）を配し、禅寺らしさを演出します。



耐火性と耐光性を考慮した外壁にします。

正面駐車場から、庫裏・本堂へはほぼ段差なしのバリアフリーで行くことができます。

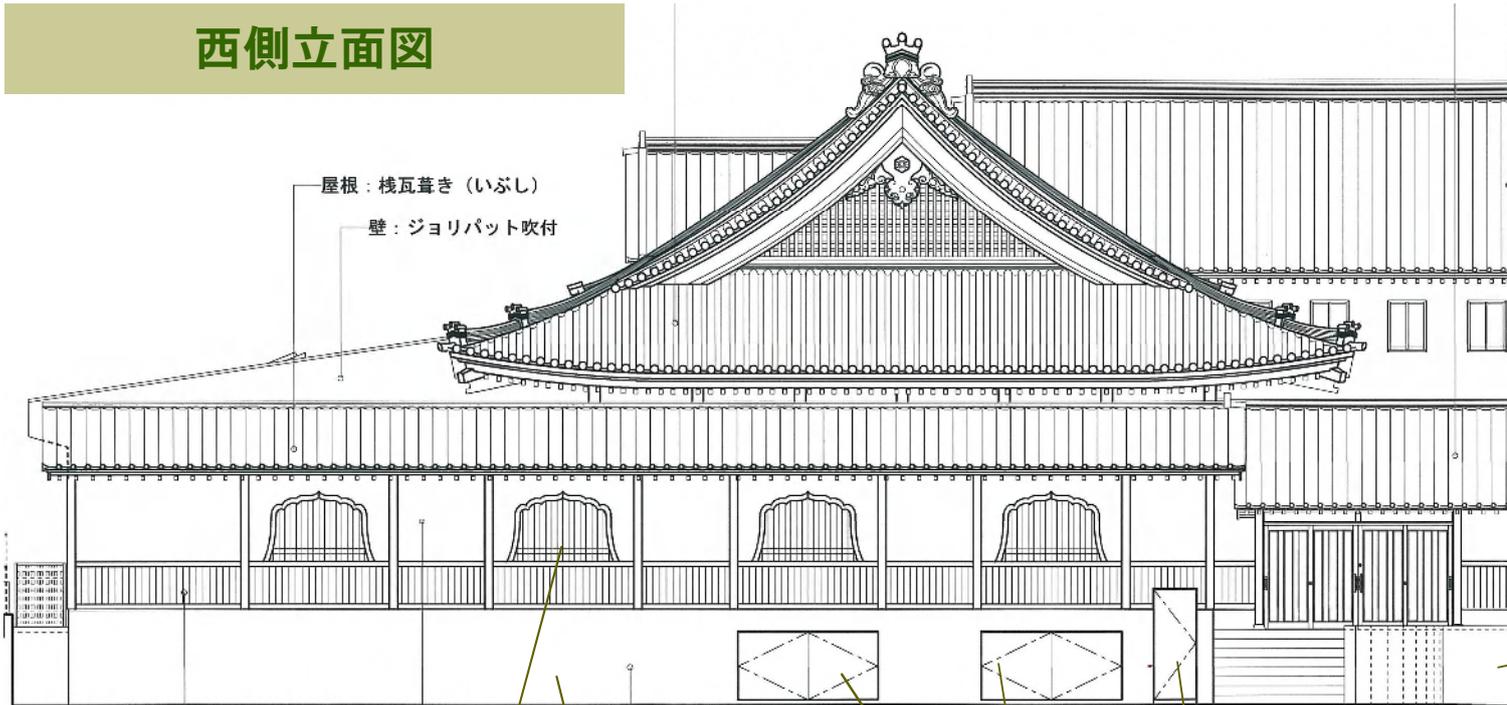
基本設計から本設計の打ち合わせになったことで、平面図だけでなく立面図も資料に出されるようになりました。いきなり図面の量も多くなり、打ち合わせも時間がかかるようになってきました。

上の図は、圓福寺の建物を正面から見た立面図です。今までと違った視線で見ることができて、建物に対するイメージが変わってきます。

いくつか今までの建物との違いで気づく点を列記してみたいと思います。

- 駐車場から段差なしで庫裏玄関に行けること。
- 駐車場から、庫裏玄関や本堂正面までの距離が近くなったこと。
- 庫裏玄関と本堂正面とが離れていないこと。
- 庫裏や寺務室から本堂前が見えて、防犯上安心であること。
- 足が不自由な人がお墓参りに来た時には、本堂前の、下の駐車場に車を止めて、段差なしでお墓まいりができること。

## 西側立面図



本堂西側は、火頭窓（かとうまど）にして、採光と西日（にしび）対策という相反する条件を満たす工夫をしております。この部分の長さはおよそ11間半あり、そこに一間半巾の火頭窓が並ぶ様子は、禅寺の風情を大いに醸し出すことだと思います。

お墓への通路から、本堂の床面までの高さは約1m75cmあり、お墓まで塀に沿って歩いていくように感じられると思います。

墓参の方のトイレです。

この床下は、外回りの物置として利用します。地藏盆や年越しまいりの道具などは、この部分に収納することになります。また、墓参の方のトイレもこの部分を有効に使って作ります。

### 【火頭窓】

火頭窓（かとうまど）は、窓の形状による名称のひとつで、上枠が火炎型や花形に作られた尖頭アーチ状の窓で、禅宗寺院の建築とともに中国から伝わり、華頭、花頭、花灯、華灯、火灯、瓦灯、架灯などとも書かれます。

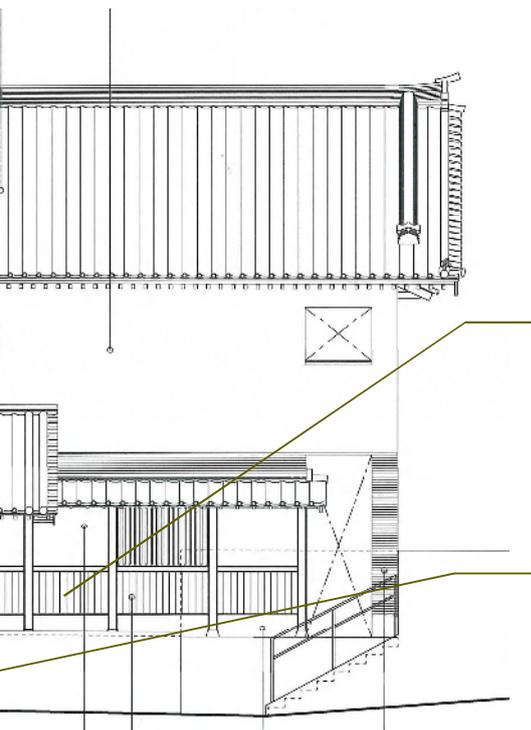
駐車場に車を止めてから、山門をくぐって庫裡・本堂に向かうようになりますが、地藏盆などの行事の時には、直接駐車場との行き来が必要ですし、荷物の搬入や緊急の場合を考えて、ここにも出入り口を設けました。通常は閉めておくことになると思います。

山門を道路まで出すことで、参道ができ、わずかですが植栽できる場所を確保できました。以前のように、緑の間を歩いて庫裡に向かうという雰囲気が出せるのではないかと、期待して

山門を道路に面するところに建てるように変更しました。駐車台数が一台分減りますが、せっかく山門を作るのなら、奥まったところではなく前面に出して、お寺があることをわかってもらえるようにしました。

これにより、山門をくぐって参道を歩いて本堂に向かうという、お寺らしい動線を確認することができます。

## 打ち合わせ記録

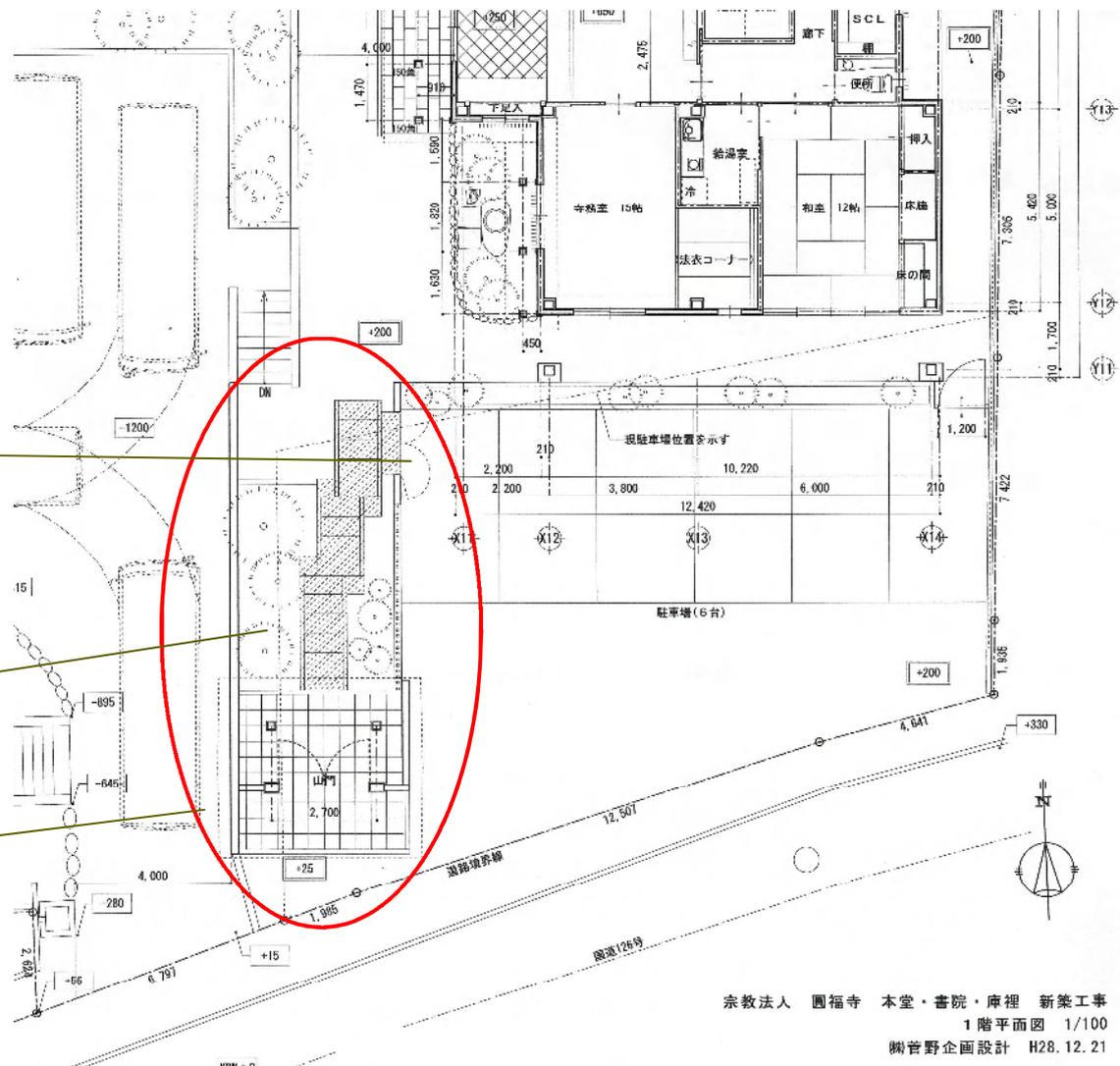


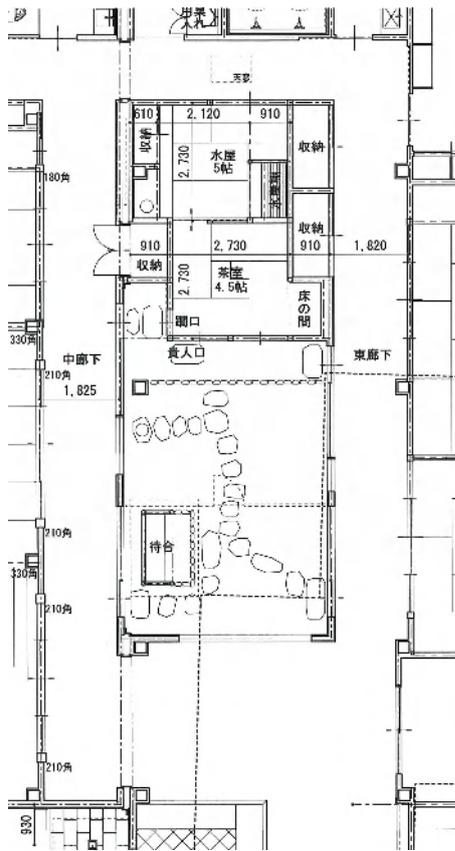
本堂から庫裡にかけて腰板を巡らせて、統一感を持たせてあります。

本堂前の駐車場から本堂の床面までの高さは約1m80cmあります。

月日	主な内容
11月14日	立面図、内陣須弥壇、植木屋さんの件
11月29日	立面図、書院部屋割り、庫裏玄関、外壁仕上げの件
12月21日	厨房、トイレ、風呂場、茶室
1月18日	予定

## 山門・駐車場





茶室と中庭の平面図

仮寺務所のテーブルの上に、すぐに手渡せるようにと、寺報や再建だよりを並べてあります。打ち合わせに来るたびに冊子が増えているので、「こんなによく発行するんですか？」と設計士さんに言われます。檀信徒のみなさんによくわかっていただくために、それは当たり前のことだと思っていますから、そんなに驚かれることでもないと思っています。

檀家の人にも言われました。「これ、和尚さんが作ってるの？」もちろんです、いちいち業者さんに頼んでいたら、経費がかかって仕方ありませんから、すべて手作りで経費削減に努めているんですよ・・・。

まだしばらくは、へたくそな編集の再建だよりにお付き合いさせていただきますが、お許しください。

## 臨済宗妙心寺派 圓福寺

千葉県稲毛区穴川町375

電話：043 (251) 9181

FAX: 043 (251) 9549

電子メール：oshou@chiba-empukuji.com

## ブラック寺院

歳末ボランティアできれいにしていた境内も、これで見納めかと眺めた穏やかなお正月でした。

来年はどんな景色になっているのやら、仮寺務所もどこにあるのやら、正月三が日をどこでどう過ごしているのやらとも思ったお正月でした。

元日零時からの新春祈禱の後、仮寺務所で仮眠。元日夜に市原に帰って、二日三日と早朝出勤。修正会のご祈禱を終えて、寺務所でお年賀に来られる方の応対。いつもなら、箱根駅伝でも見るのですが、テレビがありません。そうだ、スマホで見ようと思いましたが、画面が小

さくて老眼にはきびしく、次第に見る気も失せてしまいました。

結局、正月三が日から、この「再建だより」を編集したり、寺務仕事をするようになりました。どこか文句を言う先があるなら、「なんて、ブラック寺院だ！」というところですが、言う相手もおりません。

だいたい臨済宗は作務という野良仕事を修行に掲げていますから、臨済宗の坊さんは浅黒い顔をしているのが当たり前だから、ブラック寺院だしなあと思いつくと、ああ寺務仕事より作務をしたいなあと思うのでした。



「一日不作 一日不食」  
いちじつわ いちじつしゅく  
(一日作さざれば、一日食らわず。)